

地方自治ここにあり 首長インタビュー

若い人が住み続ける町へ 知恵を絞った町の施策

由良町長 山名 実 さん



山名町長(マスクは撮影用でなしに)

県内の市町村長を訪ね、まちづくり政策を聞く首長インタビュー。今回は日高郡由良町の山名実町長との対談です。聞き手は研究所の鈴木裕範理事です。

「協働」の町に「対話」を重ね

鈴木：山名町長、今日はよろしくお願ひします。町長になられて2年、コロナ問題に忙殺されてきた日々だと思います。町のコロナ対策から聞かせてください。

町長：2年前の5月19日から由良町長を務めさせていただいているのですが、10万円の特別定額給付金やワクチン接種など、新型コロナウイルス感染症対策ばかりで、ぼたぼたしていた感じがします。
鈴木：感染拡大の押さえ込みは、一定、成果が上がっているということですか。

町長：はい。最初のうちは、感染者は出ませんでした。「手洗い・手指消毒・マスクの着用」という広報活動を続け、皆さん守ってください。これまでもところ感染者もそれほど出ていません。本当に良かったと思っています。
鈴木：コロナ禍の終息が見えない中、引き続き、町民の命と暮らしを守る意味で、更なる町長の御奮闘をお願いいたします。
山名町長は選挙への立候補にあたり、「対話」と「協働」を強調していました。具体的にどのような対話と協働の町政に取り組むのか、この間における具体化はどうでしょう。
町長：そうですね。この2年間、本当に町民の方と対話するという機会が設けられなかったのですよ。
コロナ禍で3密回避と言われる中、「町民の声」意見箱をつくらうと提案しました。町民の方が考えられていること、求められていることを自由に書いて入れてもらうことにして、役場と3公民館に設置しました。これまでに、い

ろいろなご意見をいただきました。職員には、「町内に出たときなどには、町民の方と対話をしなさい。雑談の中でもいろいろな情報が入ってくる。町民の声を生で聴けるから、どんどん聴いてほしい」と言っています。
鈴木：ご意見箱に町民から、どんな意見が寄せられたのでしょうか。
町長：町内放送が聞きづらい場所があるというご意見がありました。多々ありましたので、昨年度から、個人宅に置く防災行政無線戸別受信機を150台ほど用意し、「聞きづらいところがあれば、貸し出します」と、貸与事業を実施しました。
鈴木：由良町は海に面し、風光明媚な優れた景観が特徴ですが、一方で、津波を中心とした災害の危険と隣り合わせという問題があります。そういう中で災害対策に早速対応された。職員にも、町内へ出て、町民の声を傾けなさいと、要するに町民の方とのコミュニケーションを深めていくことが重要だという事ですが、職員の意識改革・変化はどうですか。
町長：徐々にですが、町内に

目次

地方自治ここにあり 首長インタビュー
若い人が住み続ける町へ 知恵を絞った町の施策
由良町長 山名 実さん…… 1

和歌山県政のあり方を考えるシンポジウム
和歌山の観光と観光行政のこれからを展望する
—観光を考える視点②—
大阪観光大学学長 山田 良治……… 5

わかやま住民と自治

発行／和歌山県地域・自治体問題研究所
和歌山市太田2丁目14-9 太田ビル203号
TEL・FAX 073-488-3127
jichiken@crux.ocn.ne.jp 2022年7・8月号



「日本のエーゲ海」白崎海岸

出で、こんな問題があると聞
いては、それに対応していく
というところですね。

鈴木：実際、職員が地域の住
民の皆さんの中に入り込み、
行政を行っていくことは町の
空気を変えていくと思うので
す。

対話の力ギになるのはやは
り、聴く力、伝える力の質で
しょうか。地方自治の最前線
にいる首長もそうですけども、

職員も、聴く力を磨く必要が
ある。そして伝える。分かり
やすいメッセージをどう伝え
るかということを考えていく
必要があると思います。

町長：そうですね。人の話を

じっくり聴いて、それを理解
し、どうしていけば住民の方
がこの町で安心・安全に暮ら
せるのかということ職員が
一生懸命考える方がうまくい
くと思います。

昨年、町民の方にどうい
うサービスをしたらいいかを、
職員提案として書いてもら
いました。いろいろないい意見
がたくさん出てきました。

鈴木：職員の皆さんから。

町長：はい、職員から。それ
を取り上げて、今年度行った
事業もあります。例えば、赤
ちゃんの紙おむつ購入費助成
事業。これまで、1歳までは

毎月5000円分、2歳までは
3000円分の紙おむつ
購入費を助成していましたが、
年間では余ってくる場合
がありました。「紙おむつだ
けでなく、おしりふきや粉ミ
ルクなどにも使えるようにし
たらどうか」という提案があ
ったので、今年度から、これ
までの購入助成券を「ゆらっ
子すくすくクーポン券」に変
え、いろいろな育児用品に使
えるようにしました。

鈴木：これをしてあげばいい
だろうではなく、それが具
体的にどう使われて、成果が
上がったのか上がらないのか、
課題の解決には新たな方法を

やればいいとか、行政の最前
線にある市町村にこそ求めら
れる課題だと思えます。それ
を事業化、施策化していく事
が首長に求められるテーマだ
と思います。

ところで、由良町の課題と
いうのがたくさんあるかと思
うのですが、そうした中で町
長は、子育て支援、若者定住
移住ということを挙げていま
した。若者が住みたくなるま
ちづくりはどのようになつて
いますか。いま、どのような
段階にあるのか、お聞きでき
たらと思います。

若者が住む地域社会に 小さな町の特性を生かす

町長：私が町長に就任してか
ら、若い人に由良町へ来ても
らうために、その前に、由良
町から出て行かず住み続けて
もらえるように、民間賃貸住
宅家賃補助事業を実施してい
るのですが、それだけではな
く、町内に住宅を新築したら
一棟につき100万円を補助
する事業を始めました。18歳
未満のお子さんがいる場合は
1人あたり10万円を加算しま
す。3人いる家庭は130万
円ですね、昨年度から実施し
ています。

鈴木：財政的にはかなり負
担じゃないですか。

町長：負担にはなるのです
が、やはり、住んでもら
えれば、住民税などの収
入がありますので、商売
人であろうと、「損して得取
れ」という感じですね。

鈴木：利用状況はいかがで
すか。

町長：昨年度、5件分の予
算を用意したのですが、
その分は全部ご利用いただき
ました。今年も5件分の予算
を用意しています。

鈴木：同じ自治体でも、市に
なると、人口も対象者も多い。
由良町のような、ある意味小
さな町だから出来る施策なの
かなと、お話を伺ったので
す。

町長：まさしくそうだと思
います。

鈴木：若者が住みたくなるま
ちづくり、特に若い女性が
由良に住んでくれるためには、
子育てをする環境作りが大事
なわけですが、女性が働く場
は、重要です。

町長：そうですね、議員の中
には、企業誘致をという話も
あるのですが、今、企業も難
しいと思いますので、既存の
場所ではないと思います。

鈴木：企業誘致は、常に語ら
れる問題ですが、コロナ禍の



移住して小引分校跡に昨年できた、イ
タリアンレストランのオーベルジュ

中厳しい状況が続いています。
ですからここで発想を変え
て、外部資本に頼るのではな
くて、内部資本、町内にある
力を、どう引き出していくか、
そういう仕組みづくりが必要
だと思えます。外部から見
ていると、由良が大事にすべき
産業というのは、農業、漁業、
商業、そしてさらには観光産
業、こういったところを、ど
う再構築して活性化してい
かだと思っておりますが、由良
町の産業振興政策、どうお考
えでしょうか。

町長：由良町にも大きな企業
があります。橋梁会社、造船
所、プラスチック加工会社な
どの働ける場所があります。
小売業の方もたくさんいらっ
しゃいます。その方々には、
商工会できめ細やかに事業継
承や融資をしていただいでい



ます。漁業、農業の方々にも様々な補助事業を行っています。

うれしいことに、現在、由良町には地域おこし協力隊の方が4人も来てくれています。1人は、農業をしたいという思いからこちらに来て、2年後には独立して農業をすることを目標にしています。また、第一次産業をする人を呼ぶようなプランを考えたり観光で

人を呼ぶ専門的なことを行っている協力隊員もいます。鈴木：大きいですね。町長：はい、ありがたいと思っ

ています。2年前に地域おこし協力隊を卒業した方が2人いるのですが、2人とも由良町に住んでくれています。京都と大阪から来てくれたのですが、1人は映像関係の仕事で会社のPR映像などを作られていて、1人は商品販売の企画などの仕事をされています。そんな若い人の力もお借りして、農業や起業をされる方をサポートしていきたいと思っています。

海岸の景観文化を磨き 由良ブランドの創造へ

鈴木：由良町にお邪魔して思うのは、興国寺を始めとした歴史もありますが、海岸の景色、和歌山県内、いや全国的にも屈指のものだと思っ

ています。源がありますが、これから農業、漁業などの振興と観光とを結び付けて生かしていく、そういう政策の柱になるのは、由良の食資源、食文化だと思いますが、町長はどんなお考えをお持ちでしょうか。町長：そうですね。「ゆら早生」というみかんがあります。これは由良町発祥のもので、それが、今や日本全国で作られています。もつとPRして、由良のいいものを全国の方々に知っていただきたくという海藻があります。食品としてだけでなく、これを材料にしたハンドクリームもあります。いろいろな団体の方々が一生懸命、新商品を作ってくれています。この他にも、戸津井という地区に近大(近畿大学)の養殖クエがあります。この養殖クエは、由良町と白浜町だけで使わせていただいています。

鈴木：クエの看板があまりありません。それが近大クエで、十九島の筏のところで養殖している。町長：皆さんが各店舗で提供してくれています。年中、夏でも食べられます。鈴木：戸津井のところの旅館に鯛料理の看板がかかっています。町長：なるほど。それをもっと活用していく必要があると思います。「由良ブランド」に認定しているものはいくつあるのでしょうか。町長：「由良町推奨産品」というものがあります。紀州あかもくやゆら早生など、何十種類もの商品が登録されています。もう少し戦略的に、発信力を向上させていかないと。鈴木：発信の方法です。せっかく名前が付いているブランド品が、十分に活用されていないところもあります。その辺をどう活用していくかが大事だと思えます。

由良町は長期総合計画で観光客が25万人の町と言っていますね。町長：はい、第2期由良町総合戦略の中でもそう謳っています。昨年、キャンプ場やログハウスを利用された方など、白崎海洋公園だけで16万6000人余りの方が訪れたという記事が地方紙に掲載されました。そこで、もつと有効に使ってもらおうと、今年度、指定管理者を募集しました。現在選定中ですが、来年度から指定管理を行っていただき、これまでよりももっとお客様に来ていただけるようにしたいと思っています。鈴木：白崎をはじめ、衣奈や小引、大引など、岬を一つ回ったら、そこには大変歴史のある集落の営みがあるわけ、こうしたものを、つないで面にしていくような、そういう海岸線の利用が更に進むと幅広い活用方法ができていくのかなと期待します。景観を築しめる舞台装置、仕掛けを考えていくと、魅力を高めて創出することが出来ると思えます。町長：興国寺という臨済宗のお寺があり、こちらで座禅体験をすることが出来ます。私は以前に商工会会長を務めたことがありまして、そのときに、町内を巡る由良めぐりのコースを組んでみたのです。和歌山市から友人を呼んで、「興国寺で座禅体験をした後、白崎をクルージングして昼食をとり、戸津井鍾乳洞と衣奈



小引峠からの眺望、島陰に浮かぶ養殖筏

神社に行く」という半日コースを作ったのですが、大盛況でした。

そういうものを商品にできればと思っています。

鈴木：いまの任期中にも、やれそうですね。

町長：そうですね。3月に、観光庁の登録観光地域づくり法人(登録DMO)の地域DMOに、日高地域で初めて町内の一般社団法人が登録されました。その方々とも連携して進めていきたいと思っています。

鈴木：高速道路が大変便利になっています。複線化が進んで整備されていますが、由良町への影響というのはいかがですか。

町長：由良町には、大阪から2時間足らずで来ていただくことができます。また、1時間以内には白浜に行くこともできます。他の目的地までの通過点になってしまふのが怖いので、「由良町にはこんないいところがあります」とPRしていくことが重要と考えています。最寄りの広川ICから由良町への国道42号の水越峠という箇所がくねくねとした道路なので、その改良工事を国の方に要望しているところです。

鈴木：観光産業充実へ、交通網の整備がまだ必要ということですね。ところで、先ほどの若い世代の移住定住に関連してですが、若い世代の感性や知識、行動力をまちづくりに生かしていくということは、地方の自治体にとっても大きな課題です。高校や大学との連携・共同の取り組み状況は、いかがですか。

町長：大阪の摂南大学と以前からお付き合いがありまして、平成26年に「大学のふるさとに関する協定」を結ばせていただきました。由良町の分析をしていただき、提案もいただきました。また、和歌山大学とも連携し、地域課題解決型事業活動プランコンテスト

を開催させていただきました。優勝されたのは、和歌山大学の学生グループの皆さんでした。このプランが面白いものでした。「由良町でしか味わえないオリジナルみかんサウナ」。テントでできるサウナ風呂はどうかというご提案で、このプランが最優秀賞となりました。

鈴木：由良町は平成の市町村合併で、合併しないで、結果的に単独を選択されました。単独の困難というのもあったと思うのですが、町長はどのような評価をされていますか。

町長：あの時、いろいろ合併の話もありましたが、個人的には、由良町単独で良かったと思っています。やはり、当時は「由良町がなくなってしまうのはとても寂しい」という思いがあったので、「残ってよかったなあ」と思いましたね。

鈴木：先ほど町長がおっしゃった事業にしても、多分、合併をしていたら出来なかったと思います。

町長：そうですね。

鈴木：小さな自治体を選択した結果が、山名町政の中でもできていると思いました。

コロナ問題は、収束の見通しが立っていません。さらに

ロシアのウクライナ侵攻で、これは平和に対する戦争だと思ったりしますが、このコロナ禍、ウクライナ侵攻で、由良町の地域経済への影響というのはいくですか。

町長：ガソリンや食料品など物価が上がってきています。本当に重要な問題です。ロシアのウクライナ侵攻は、人道的にも許されることではあり

ません。本当に、早く止めてほしいです。

鈴木：町民の暮らしにも、影響というのはいく出ていますか。

インタビューの終わりに、町長から、これは言うておきたいというのはどうでしょうか。

町長：防災に関してですが、由良町19地区で、早い時期から各地区で自主防災会を作っていたら、避難訓練等を行っています。今年度から自主防災会協議会という組織も設立されました。町との連携が密にできるようなり、町で手が回らない部分や、自主防災に関する要望等について、お互いに補完・連携できるだ

ろうと考えています。ありがたいことです。

また、これまでも近くの自治体とは災害協定を締結していましたが、南海地震等の大災害が発生すると、ほとんどの近隣の自治体も被害を受けることとなります。平成30年に、岐阜県美濃加茂市と災害援助も含めた相互連携協定を締結しました。今年の1月には岡山県の総社市、和歌山県かつらぎ町とも災害協定を締結しました。遠方の自治体と協力することで、同じ災害を受けずに支援し合うことができます。由良町は津波が発生すると市街地全部が浸水区域に入ってしまうのですが、かつらぎ町は、「仮設住宅建設までの間、避難生活をする場所を提供します」と言ってくれています。本当にありがたいことです。これからも他の自治体とも協定を締結していきたいと考えています。

鈴木：なるほど。

町長：各地区に一時避難所を備えています。また整備できていないところもありますので、これからも整備を進めていこうと思っています。

鈴木：分かりました。町長、長時間、今日はありがとうございました。

災害に備え 全国との連携も推進

町長：防災に関してですが、由良町19地区で、早い時期から各地区で自主防災会を作っていたら、避難訓練等を行っています。今年度から自主防災会協議会という組織も設立されました。町との連携が密にできるようなり、町で手が回らない部分や、自主防災に関する要望等について、お互いに補完・連携できるだ

ろうと考えています。ありがたいことです。

また、これまでも近くの自治体とは災害協定を締結していましたが、南海地震等の大災害が発生すると、ほとんどの近隣の自治体も被害を受けることとなります。平成30年に、岐阜県美濃加茂市と災害援助も含めた相互連携協定を締結しました。今年の1月には岡山県の総社市、和歌山県かつらぎ町とも災害協定を締結しました。遠方の自治体と協力することで、同じ災害を受けずに支援し合うことができます。由良町は津波が発生すると市街地全部が浸水区域に入ってしまうのですが、かつらぎ町は、「仮設住宅建設までの間、避難生活をする場所を提供します」と言ってくれています。本当にありがたいことです。これからも他の自治体とも協定を締結していきたいと考えています。

鈴木：なるほど。

町長：各地区に一時避難所を備えています。また整備できていないところもありますので、これからも整備を進めていこうと思っています。

鈴木：分かりました。町長、長時間、今日はありがとうございました。